



天栄中学校区リーディング DX スクール事業の取組

教育を取り巻く社会状況が急速に変化し、将来の予測が困難な時代に、児童生徒が自ら考え判断し、主体的に行動できる力を身に付けることが必要とされています。中央教育審議会答申では、子どもが学習を選択したり決定したりして進める姿、先生がいなくても学習を自分なりに進められる姿がめざされています。

そこで、天栄中学校区では、児童生徒の「主体的に学ぶ力」の育成を図るため、統一して「リーディング DX スクール事業」（子どもが主体となる授業）の取組を実施していきます。

これは、今まで学校で実施していた一斉授業主体の授業から転換を図り、授業の中で1人1台端末とクラウド環境を活用しながら、子ども自身が自分に合った課題や学び方、学ぶ内容を選択して学んでいくことを増やしていきます。そして、一人ひとりの思考を生かし、お互いに協力したり話し合ったりしながら学習することで、協働的な学びを生み出し、「自ら学びを進めていける児童生徒」を育てていく取組です。教科の内容や活動によっては、一斉授業も実施していきますが、段階的に「子どもが主体となる授業」へ移行していくことを目標にしています。

また、「リーディング DX スクール事業」の指導内容や指導方法を研修するために、校内で授業研究を行ったり、他校の研修会に参加したりするなど、教員の指導力向上にも努めています。今後、教員の研修等で下校時間の変更を行う場合もございますが、ご理解ご協力をいただきますようお願いいたします。

リーディング DX スクール事業における授業の工夫の仕方の例

学習課題	めあてを達成するために、これまでの「教員から示された課題に取り組む」ことから、「複数の課題から自ら選択した課題に取り組む」「自分が探究したい課題を選択して取り組む」などのように学年に応じて段階的に移行していく。
学習方法	教科書や副読本をベースに、学校図書館の活用や1人1台端末を活用して調べていく。
学習するときの形態	一人でじっくり考える。ペアやグループで考える。 知りたい内容によって相談する相手を変える。 クラウド環境をつかって、友だちの考えを見て参考にする。

鈴鹿市公式ウェブサイト「リーディング DX スクール事業」のページができました。ぜひご覧ください。

